

[選択的評価基準]

地域貢献の取り組みについて

基準(1)地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業、正規授業の解放等を実施している。

(a) 現状

地域に向けた公開講座の開催や地域の保育者支援等、本学の地域貢献の取り組みは、付設機関である「こども研究センター」と「ヴェルボトナル言語教育研究所」の二つの事業として実施している。次に各付設機関の主たる事業を挙げる、

① こども研究センター

本学では、平成 26 年度から関東短期大学の付設機関として「こども研究センター」を開設した。同センターは子どもの教育や保育に関する研究及び実践を行うとともに、得られた成果を地域に還元すべく、子どもの教育や保育に関する地域支援を行うことを目的としている。この設立趣旨に基づき、以前から開催していた公開講座をこども研究センターの事業として、平成 28 年度は館林市教育委員会と共催で、地域の就学前の子どもの子育てしている保護者を対象として、3 回の公開講座を開講した。また、講座開講中は本学教員と本学学生が託児を実施した。

【公開講座】

テーマ「パパ・ママいきいき子育てレッスン 1 2 3」

回数	開催日	講座名	講師
1	8 月 27 日(土)	短時間でできる子どもが喜ぶ簡単おやつ	講師 水野三千代
2	9 月 17 日(土)	良い加減の子育てのすすめ	教授 木村たか子
3	10 月 8 日(土)	子どもと楽しむおうちのなかの遊び	准教授 中山初枝

平成 28 年度は 3 回、合計 33 名の保護者（託児 35 名）が受講し、参加者のアンケート結果から好評を得ている。

【出前授業】

No	実施日	高校名	担当教員	参加生徒
1	9 月 26 日(月)	佐野清澄高校	木村教授	32 人
2	9 月 26 日(月)	足利清風高校	森 教授	80 人
3	9 月 29 日(木)	板倉高校	森 教授	13 人
4	2 月 9 日(木)	誠和福祉高校	中山准教授	35 人
5	2 月 10 日(金)	宇都宮文星女子高校	森 教授	27 人
6	2 月 27 日(月)	常磐高校	塚越講師	39 人

【地域の保育者支援】

a) 卒業生への支援

リカレント教育の一環として、「こども学科卒業生の集い」をアザリア祭にて開催した。10月22日（土）には18名、23日（日）には51名、延べ69名の卒業生が来室した。卒業アルバム等を見ながら卒業生も懐かしく昔を思い出すとともに、先生方に職場での悩みやキャリア形成に関する相談などができる場となったようだ。

b) 合同研究会

群馬県のこども園園長による保育研究グループである ASK (Association for Smiling Kids) との共催で 12 月 6 日 (火) に合同研究会を開催した。本学の専任教員から、未就学児のメディア利用が発達に及ぼす影響についての研究動向や、未就学児家庭でのメディア教育の実態調査の結果が報告された。その内容に基づき、参加者の間で活発なディスカッションが行われ、今後、子どもがどのようにメディアと関わっていけばよいのか議論が深まった。

②ヴェルボトナル言語教育研究所

ヴェルボトナル言語教育研究所は、1950 年代にペタル・グベリナ博士によって提唱されたヴェルボトナル理論に基づき、残されている聴力を活用するとともに、触振動覚、運動感覚、リズム感覚など多くの感覚を利用して、自然な発話を引き出す言葉の指導法である。

この研究所では、聴覚言語障がい児を対象とした聴き取り指導、発音指導、言語指導及びそれらの指導法の研究、ヴェルボトナル理論と技法の普及を活動方針としている。

平成 28 年度は指導活動を館林市・仙台市で実施し、聴覚言語障がいの改善に寄与した。市民を対象とした講習会と、本学授業内での活動を通してヴェルボトナル理論と技法の啓発を図っている。

<指導活動>

平成 28 年度

活動場所	児童・生徒数	対象学年	指導頻度
館林市（研究所）	12 名	幼稚園児 ～高校生	週 1 回～月 1 回 * 児童・生徒の状況による
仙台市 （仙台市福祉プラ ザ）	10 名	幼稚園児 ～中学 1 年生	年 4 回 * 指導相談会として実施

<普及活動>

平成 28 年度

	参加数	参加者所属	普及活動内容	実施時期
夏期講習会	18 名	・ 大学教員 ・ 保護者 ・ 聴覚障がいの高校生・大学生	ヴェルボトナル基礎理論と技法	8 月 6 日
本学授業内	40 名	科目「ことばの障がい」履修学生	聴覚言語障がいの原因・症状・対応・改善について	前学期 15 回 後学期 15 回

③七夕まつり

平成 28 年 7 月 2 日（土）には、近隣の幼稚園や保育園の幼児をはじめたくさんの親子を招き、本学 1 年生が主体となって「関東短期大学七夕まつり」を実施した。

半日の行事であったが 150 名を超える参加者があり、本学 1 年生の様子やこども学科の学びを広報する良い機会でもあり、また、学生にとっては保育実践の良い機会ともなっている。

(b) 課題

「こども研究センター」の地域社会に向けた公開講座として 3 年目を迎えたが、子育て中の保護者のみならず一般向けの講座内容等の要望もあり、今後の検討が必要である。

(c) 改善計画

「こども研究センター」の趣旨や本学教員の特徴を生かしつつ、広い年齢層への対応として講座内容等も検討し、次年度には具体化していく。

備付資料：資料 1. ウェブサイト

<http://www.kanto-gakuen.ac.jp/junir/>

資料 37 こども研究センター規程

資料 38 こども研究センター活動記録

資料 39 ヴェルボトナル言語教育研究所規程

資料 40 ヴェルボトナル言語教育研究所活動記録

資料 41 公開講座案内ポスター

資料 42 七夕まつりポスター

基準(2)地域社会の行政、商工業、教育機関及び文化団体等と交流活動を行っている。

(a) 現状

行政機関をはじめ、幼稚園や保育所、各種教育団体等から研修会の講師依頼が多数あり、教員の専門性や研究内容を生かした地域貢献に積極的に取り組んでいる。

また、地域の自治体や団体機関等から各種委員や役員等を委嘱されることも多く、本来業務に差し支えない限り受諾して地域との交流を図っている。

【教員の社会的活動等】

平成 28 年度

番号	委員等
1	全国保育士養成協議会 理事
2	群馬県社会福祉審議会児童措置・虐待対応専門部会 部会長
3	群馬社会福祉評価機構第三者評価 決定委員
4	群馬県総合教育センター幼児教育センター 保育アドバイザー
5	館林市子ども・子育て会議 委員
6	館林市総合福祉センター サポーター
7	館林市総合計画「子育てと学び」 部会長
8	館林市地域福祉計画策定 委員
9	館林市史編纂会 委員
10	館林市教育委員会 教育行政点検評価委員
11	群馬県明和町教育委員会 教育行政点検評価委員
12	NPO 法人前橋保育ネットワーク運営子育て支援事業「元気 21」 顧問
13	群馬県自閉症協会高機能部会 顧問
14	特別養護老人ホーム「こうふく園」 理事
15	社会福祉法人桃木会 理事
16	社会福祉法人清栄会 評議員
17	群馬県立館林商工高等学校 評議員
18	前橋市立桃木小学校 評議員
19	前橋市立大胡東幼稚園 評議員

(b) 課題

館林市をはじめ様々な委員の委嘱や研修会講師等の依頼が多いが、担当する授業との調整が不可欠である。

(c) 改善計画

こども学科の教員の特徴を生かした地域貢献を今後も推進していきたい。

備付資料：該当なし

基準(3)教職員及び学生がボランティア活動等を通じて地域に貢献している。

(a) 現状

本学では、学則や学生便覧に掲げているように、大学生活を通して深い学問を修め、広い教養を身に付けて、より豊かな人間性を培う教育を目指している。

その中でも特に、広く奉仕することを通して社会参加し、それによって体験できる社会連帯の精神を培う福祉活動を重視し、人間性豊かな人格形成を図ることを大切にしている。そこで、学生には、この社会福祉の精神を理解してボランティア等の活動に積極的にかかわり、実践を通して豊かな人間性を身に付けるよう期待している。

【平成 28 年度のボランティア活動実践例】

月	事業名・主催者	活動内容	参加学生
5	・わくわくこども劇場 2回公演 (ぐんまこどもの国)	こどもたち向けの遊びの提供 約 350 名参加	120 名
	・キャンドル・ナイト (館林市青年会議所)	学生教職員全員で、グラスに絵付け 協力、当日会場係ボランティア	6 名
	・魅力ある観光地づくり (館林市商工会議所青年部)	複数回会議に出席、つつじが岡公園 の未来像を提言した	10 名
6	・たてばやし花菖蒲祭り 花摘み娘 (館林商業観光課)	花菖蒲の枯れた花摘みと撮影会の モデル	9 名
	・運動会 (障がい者支援施設 はくちょう園)	利用者の介助、模擬店の手伝い	10 名
7	・各幼稚園・保育園・認定こども園・ 施設 夏祭り	施設の行う行事のお手伝い	4～5 人で 参加
8	・夏祭り (館林特別支援学校)	控室や楽屋で待機し準備や片付け の手伝い	5 名
9	・各幼稚園・保育園・認定こども園・ 施設 運動会	施設の行う行事の手伝い	
10	・夕涼み会 (障がい者支援施設 はくちょう園)	利用者の介助・模擬店手伝い	5 名
9	・館林福祉祭り (館林市社会福祉協議会)	高齢者・子どもたち・障害者など対 象の遊びの提供	8 名
10	・麺—1 グランプリ 約 2 万人参加 (館林市観光課)	会場係	8 名
	・ハロウィン・ナイト (館林市青年会議所) 千人以上参加	企画会議から参加。当日飾り付け・ 来場者への対応ボランティア	6 名
	・秋まつり (知的障害者施設 陽光園)	知的障がい者の付添いや食事介助、 家族支援	10 名
10	・運動会 (愛泉乳児園)	子どもたちの援助、運動会運営補助	8 名

1	・世界自閉症啓発デー (群馬県・館林市自閉症協会)	鯉のぼり製作の手伝い。2匹の鯉のぼりを作成。～3月末	34名
---	------------------------------	----------------------------	-----

(b) 課題

こども学科の学生として、日ごろ学んでいる学習内容を生かし、子どもや高齢者、障がいのある人たちとの関わりを中心とした活動を実践してきている。各ボランティア主催団体等からは、参加学生の活動に称賛の声を得ている。

しかし、授業時数の確保から土曜日に授業実施も多く、日曜日や祝日にも学内行事、授業実施もあるため、主に週末に実施する自治体や各種団体、施設等の行事へのボランティア参加要請は、授業との調整が必要にもなってくる。

今後一層呼びかけて、多くの学生の参加を推奨していきたい。

(c) 改善計画

館林市をはじめ、多くの団体等からボランティアの要請はあるが、授業との関連を踏まえながら調整を図り、学生に周知する方法等も工夫し、更に計画的かつ積極的に取り組むよう啓発を図りたい。

備付資料：資料 43 わくわくこども劇場ポスター

資料 44 ボランティア募集依頼記録